



一年の福を願い 伝統の福俵引き

1/11 豊科成相区・新田区福俵引き

正月の伝統行事、豊科の成相区と新田区の「福俵引き」が1月11日、両区内で行われました。当日は両区の30人ほどの若衆が、威勢よく福俵を引き回し、途中、市神様の前では、両区の若衆の親方を上に乗せた人間ピラミッドも組まれました。福俵は、昨年、慶事があった家庭や企業に納められており、本年は、創業100年を超えた割烹と開店したラーメン店に納められました。成相区の親方の藤松明宏さん（豊科）は「周りの支えに助けられ、盛大に福俵を無事に納めることができました」と話しました。



昔の人の暮らしや道具を体験

1/20 昔の暮らし体験教室

江戸時代から昭和30年代にかけて人々が営んでいた暮らしを子どもたちに伝える出前講座「昔の暮らし体験教室」（市教育委員会主催）が1月20日、豊科北小学校で開催されました。この日は3年生88人が参加。市の博物館・資料館の職員などから当時の暮らしの様子の説明を受けた後、着物を着たり、道具などに手を触れたりしました。石臼できな粉を挽いた角山壮大くんは「石臼の使い方が分かりました。きな粉も香ばしくておいしかったです」と話しました。

地域の安全安心へ団員一丸

1/10 市消防団出初式

恒例の市消防団出初式が1月10日、穂高会館で開かれ、参加した約450人の団員が防火・防災の決意を新たにしました。

式典では、無火災表彰や功績のあった団員への表彰、退団者表彰が行われ、寺畑佳司団長は式辞の中で「市民から信用される消防団を築きたい」と話しました。

式典後、分列行進が穂高会館と穂高駅前までの間約1.3キロで行われ、沿道に集まった市民が見守る中、音楽喇叭隊の行進曲に合わせて団員と消防車両20台が行進を披露しました。



人生の節目 誓い新たに

1/10 安曇野市成人式

安曇野市成人式が1月10日、安曇野スイス村サンモリッツ（豊科南穂高）で開かれました。この日は、761人の新成人が出席し、人生の大きな節目に誓いを新たにしました。

式典では、宮澤市長が「世界的な視野を持ち、ふるさと安曇野を愛し、各分野で活躍されることを期待します」とあいさつ。その後、新成人を代表して伊藤大樹さん（堀金烏川）が「社会人の仲間入りした喜びと共に、大人として各自がそれぞれの分野で努力していきたい」と決意を述べました。

式終了後には、中学校時代の給食を再現した献立を囲みながらの交流会と、中学校の卒業アルバムで制作されたフォトムービーの上映が行われました。なお、本年度、市内では1,028人（男性525人、女性503人）が成人を迎えました。



ライアーが奏でる 美しい音色

1/16 池末みゆき 新春ライアーコンサート

安曇野高橋節郎記念美術館の収蔵品のひとつ、竖琴「ライアー」の演奏会が1月16日、同館で行われました。このライアーは、名誉市民・故高橋節郎さんが薄く切った貝殻で螺鈿装飾を施した作品です。当日は、高橋さんと親交があったライアー奏者・池末みゆきさんがわらべ歌や子守歌などを演奏。演奏会の最後には、約50人の来場者と一緒に「ふるさと」を合唱しました。母親と来場した古田楓和ちゃん（豊科南小1年）は「ライアーの流れるような音がとてもきれいでした」と話しました。



犀川の水環境保全に20年

1/22 犀川水系水のネットワーク・優良団体表彰伝達式

市内で水環境保全活動に取り組む「犀川水系水のネットワーク連絡協議会」（平林千代会長）が、信濃川水系水質汚濁対策連絡協議会（国土交通省、経済産業省、流域県・市町村で構成）から優良団体表彰を受け、1月22日に市役所で伝達式が行われました。犀川水系水のネットワーク連絡協議会は平成4年に犀川水系の水環境保全などに取り組む団体・個人によって設立。20年以上にわたり、水の大切さや水に親しむ活動に取り組んできたことが評価されました。平林会長は「地道な活動が認められ、うれしいです。今後は若い世代も参加してもらえるよう取り組みたいです」と話しました。